

万協 フィギュア 博物館

渾身のコレクション2

多気町

体高3mのメカゴジラはスクラップアートの一点もの。スケールモデルだけでなく、オーダーメイドの等身大フィギュアも多数。



手触りや重さのある三次元のオモチャを
後世にまで伝えていきたいんやー



日本経営品質賞などを受賞し、経営者としても注目される松浦さんはTV出演や講演依頼も多い。公私ともに忙しいが、会社が休みの日もたいていここにいるフィギュアと過ごしている。自ら仕掛ける「おたコス」では、率先してスパイダーマンや悟空(ドラゴンボール)に変身。

収集癖の馴れ初めは5歳で買ってもらった鉄人28号。当時はブリキの彩色で、こんなに鮮やかで曲線的なフォルムではなかった。



松浦さんは筆者と同年。幼年期だった半世紀前にウルトラマン、マグマ大使のカラー放送が始まり、それまでブリキに彩色されていたオモチャは、プラスチックやソフビという新素材を得て、一気にリアルなプロポーションに変わった。幼稚園児や小学生が夢中にならないわけがない。そして小四のとき、ついに仮面ライダーがテレビ画面に現れる。

中学生になり、規則で坊主頭にされたのを機に一度はフィギュアからの卒業を試みた松浦少年だが、そんな折、タミヤの1/35ミリタリーシリーズが発売された。迷彩色に塗装したり、兵士を添えてジオラマをつくったり。そうこうしているうちに、宇宙戦艦ヤマト、ガンダムの放送が始まって

ゴジラ、ウルトラマン、仮面ライダー、デビルマン、ガンダム……。男子なら一度は夢中になった特撮やアニメのヒーローたち。
思春期になれば、多くが音楽や異性、クルマへと興味を移していく中で、半世紀に渡ってヒーローや怪獣のフィギュアを愛し続ける男がいる。万協フィギュア博物館長の松浦信男さん(55)だ。展示総数三万点強、収集に要したお金は二億円を超える。オタクの権化とも言える彼の本業は、年商三十億円の(株)万協製薬社長だ。
なんだボンボンの道楽か、と思われるかもしれないが、それはちよっと違う。彼は二二年前の阪神淡路大震災で家、会社、コレクションのすべてを失ってから、ここまで這い上がってきた。

フィギュア道半世紀

「フィギュアの洗礼は鉄人28号です。同じロボットでも、可愛らしくて意思を持つ鉄腕アトムと違い、リモコンで操られる鉄人は無機質な冷たさがかっこよかった」

庭先で入学式の朝を撮る 梓葉



季節の
お干菓子

射松
和屋
白子

松阪市射和町566-4 ☎0598-29-2118
営業時間 8:30~19:30 火曜定休
<http://www.shirokoya.com>
☎0120-172118

多気町をオタク文化の聖地に
「薬剤師の資格を取るべく、二二歳にして大学へ入ったんですが、この頃オタクという言葉が生まれ、いい歳をしてフィギュア集めなんかしてる奴は変人扱いされたので、在学中は趣味を隠してました」ところが松浦さんの収集癖は治まるところかよりマニア度を増

フィギュア道に完全復帰。気がつけば二浪して二十歳に。このままではいかんと、父の経営する万協製薬へ強制入社させられてしまう。初任給の十万円はすべてガンブラに消えた。

多気町をオタク文化の聖地に

し、出回り始めた精巧なガレージキットにはまっていた。世を忍んでフィギュア集めをしていた松浦さんに福音をもたらしたのがスターウォーズだ。特撮物に大人が興味を持っていいという許しを得た気分だったという。そんなオタクにも二十代後半、生身の彼女ができた。ガレージキットとデート代を天秤にかけた松浦さんは後者を選ぶ。三十歳で結婚。と同時に、釣った魚に餌はやらぬとばかり、封印していた趣味を再開。夫婦でショッピングをするうち、新居のリビングはフィギュアで埋め尽くされた。そこへ大震災が起こった。

失意とともに神戸を後にした松浦さんは多気町で再起を図る。二十年後、会社の売上は百倍に、愛車はフェスティバからGTRに、フィギュアのコレクションは三万点を超え日本一になった。「がれきの中から掘り出したフィギュアを十年かけて修復しました。館内にはそれらも展示しています。平面のデジタルゲーム流行りの昨今ですが、手触りや質量を感じられる三次元のオモチャを後世に残していきたい」松浦さんはロケーション・コスプレ「おたコス」を開催するなど多気町をオタク文化の聖地にと目論んでいる。



多気郡多気町仁田 725-1
TEL.0598-30-5266
9:00 ~ 18:00 土曜休館 (祝日は開館)
入館料 800円 (化粧品のお土産付き)
<http://www.bankyo.com/figure/>

万協製薬第三工場。この中に右頁の世界があるとは。



BANKYO FIGURE MUSEUM

- 1 / 歴代仮面ライダーの棚。雑然と押し込められているように見えるが、松浦さん自身が選び、置きかたも決めている。パッケージのまま残したい物は開封せずに天板の上へ。
- 2 / 「大人げない」と思いつつ萌えキャラも展示。
- 3 / 中年が幼い日に熱中したサンダーバード。スターウォーズやバットマン、GI ジョー、トイストーリーなどのコーナーも。
- 4 / コスプレ用の衣装も展示。館内のスタジオで写真撮影することもできる。

取材・文◎吉川和之

